

オリンピック・パラリンピック / ボランティア

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

ボランティアって？

ボランティアとは？

ボランティアとは、自分の意志で社会事業などに参加し活動をする人、または活動そのものを指す言葉です。

日本では、奉仕活動、善行といった意味を含む言葉として広まっています。

そう聞くと、高い志やスキルがあるなど、限られた人が行う活動のように思えるかもしれませんが、そんなことはありません。「やってみよう」という自発的なマインドがあれば、誰でも参加できるのがボランティアです。

興味があることや気になっていること、あるいは好きなことや得意なことをきっかけに「やってみよう」が芽生えたら、まずは行動に移してみましょう。

その行動が、めぐりめぐって誰かの助けになったり、力になったりします。

ボランティアの語源

ラテン語で「意志」「意欲」をあらわす言葉『voluntas (ヴォルンタース・ヴォランタス)』が、ボランティアの語源だといわれています。また、英語の『volunteer (ボランティア)』を日本語にすると、「志願者」「自発的に申し出る」といった意味に訳されます。

ポイントとなるワードは、「意志」「自発的」。つまり、誰かに言われたからするのではなく、自ら進んで行うことが、ボランティアの本来のあり方です。

ボランティア活動の4つの原則

ボランティアをしてみようと思ったときに、知っておきたい4つの原則があります。

- ・自主性・主体性：自分から進んで行動する

ボランティア活動のきっかけは様々です。大切なのは、「やってみよう」「やってみたい」と思う、自分自身の気持ちのもとに動くことです。誰かの強い求めや義務感に左右されるものではありません。

- ・社会性・連帯性：学び合い、協力し合う

ボランティアは、人それぞれに違う考え方を認め合い、協力しながら行う活動です。また、たくさんの人との関わりの中で新たな経験や知識を得る、学び合いの場としての側面もあります。

- ・無償性・無給性：お金には代えられない報酬がある

これまでに無い出会い、達成感や喜びなど、ボランティア活動を通して得られる経験や心の動きを、報酬と言い換えることができます。お金を得ることが目的ではありません。

- ・創造性・開拓性・先駆性：自由な発想で課題に取り組む

自主的に動くからこそ、自分ならではの視点を持てたり、新たな発想が生まれたりします。あらゆる角度から課題をとらえ、解決に向かって様々なアプローチをしていくことが、ひいてはより良い未来を切り開くことにつながります。

ボランティアに役立つ8つのこと

ボランティアって難しいの？何を準備すればいいの？そんな疑問にお答えします。

事前の準備から当日まで、知っておけば初めてのボランティアでも安心！

1. ボランティアの前に準備すること

事前に配布される資料に目を通し、担当する活動内容、スケジュール、集合場所などを把握しておきましょう。また、会場の見取り図から、トイレや救護室、避難経路も確認しておくで安心です。

会場付近のレストランや観光スポットなどもチェックしておけば、来場者から聞かれた際の対応がスムーズになります。

2. これだけは用意したい、ボランティアの必須アイテム

当日は動きやすい服装、靴で参加しましょう。荷物は基本的に自己管理になりますので、できるだけ少なめが好ましいです。貴重品や常に持ち歩くものは、ウエストポーチなどに入れて身に着け、それ以外の荷物はコインロッカーなどの利用を検討しましょう。

ここでは、ボランティアの際に必要な最小限のアイテムをご紹介します。

<持ち物>

- ・ハンカチ又はタオル、ティッシュペーパー
- ・メモ帳、ペン
- ・飲料水やスポーツドリンク、塩分補給用の飴など
- ・雨具（天候に応じて）

※飲み物は支給されるケースがあります。

3. ちょっと役立つグッズを紹介

上記のほか、ボランティア活動時があると便利なものをピックアップしました。

<あると便利なグッズ>

- ・ペットボトルホルダー（バッグに装着できるタイプ）
- ・電子マネー用カード
- ・日焼け止め、虫除けグッズ、カイロなど（気候に応じて）
- ・ウェットティッシュ、手指消毒用アルコール、ばんそうこう
- ・ゴミ袋、軍手

ゴミ袋は、屋外での休憩時などに敷物代わりとして使うこともできます。また、海外からの来場客と接するシーンが想定されるなら、必要に応じてスマートフォン等に翻訳アプリなどをインストールしておくとも良いでしょう。

4. もっとも大切なことは元気なあいさつ！

元気なあいさつは、コミュニケーションの基本です。

ボランティアスタッフ間はもちろん、参加者や来場者にも、笑顔で元気の良いあいさつ、受け答えで接しましょう。

5. 3つのアクション、「守ろう」「聞こう」「提案しよう」を意識しよう

ボランティアは無償の活動ではありますが、自らが進んで引き受けた以上は責任感を持つ事が大切です。より有意義な活動ができるよう、以下3つのアクションを意識しましょう。

● 守ろう

スケジュールや持ち物など、活動内容によって定められたルールは守りましょう。また、遅刻や欠席をする場合は、必ず担当者に連絡をしましょう。

● 聞こう

慣れない活動では、どう動いて良いか分からなかったり、迷ったりすることが出てくるものです。そんな時は、遠慮せずに担当者やボランティアリーダーに質問しましょう。

● 提案しよう

ボランティアは、自主的な活動です。指示どおりに動くだけでなく、活動のなかで気づいたこと、こうした方が良いと思ったことは、積極的に提案しましょう。

6. チームワークを大切に

ボランティアの現場では、多くの人々が活動しています。チームメンバー、周囲の人と声を掛け合いつつ共通の目標に向かって連携していく事が、より意義のある活動をするための大きなポイントになります。

相手が必要としている事は何か、どうすれば周囲の支えになるかを常に考えながら行動するよう心がけましょう。

7. 個人情報の扱いに要注意！

活動中に知り得た情報の取り扱いには、ことさら慎重さが必要です。

特に参加アスリートやスタッフ、関係者の個人情報を SNS などに投稿する、他者にむやみに話すといった行為はやめましょう。

関わる人みんなが気持ちよく過ごしたり活動したりできるよう、ルールやマナーを守り、責任を持って行動しましょう。

8. 保険の加入でいざというときにも安心！

ボランティア活動中の事故、損害などを補償する保険があります。

もしもに備え、これらの保険に加入しておくとおくと安心です。

ボランティア活動中は事故やケガに注意！

ボランティア活動中に注意したい事故

ボランティア活動中、不慮の事故は誰にでも、どんな状況でも起こる可能性があります。例えば、転倒や転落によりケガをしたり、食中毒や熱中症にかかったりする場合があります。また、自分自身ではなく、第三者にケガをさせてしまったり、物を壊してしまったりする場合があります。

いざ事故が起こってしまうと、治療費や賠償金が高額になるケースもあるので注意しましょう。

事故防止のために気をつけたいこと

ボランティア活動を安全に、そして楽しく行うために、次の5つを心がけましょう。

1. 責任者の話をよく聞くこと
2. 動きやすく、天候にあった服装を選ぶこと
3. 足元や背後に注意すること
4. 疲れを感じたとき、体調が悪いときは無理せず休むこと
5. 周囲のボランティアと協力や情報共有すること

ボランティアは自主的な活動ですが、事故が起きた場合は個人の責任ではすまない場合もあるので、十分に注意を払って行動してください。

もしものための「ボランティア保険」

ボランティア活動中の事故や災害による、ケガや賠償責任に備える「ボランティア保険」という保険があります。

加入については、最寄りのボランティアセンター又は社会福祉協議会へお問い合わせください。